

高塚山の石窟〈せつくつ〉（垂水区名谷町）

名谷町の高塚山に石のほら穴があります。石でつくったほら穴のことを、石窟〈せつくつ〉というのです。名谷町中山にある高塚山には、この石のほら穴があります。

このほら穴には、いろいろのいわれがあります。

そのむかし、このあたり一面に火の雨が降ったことがありました。そのため、人びとはたいへんおどろき、なきさけびました。そのため、人びとは、石に穴をほって、その中で住むようになりました。それが、高塚山の石窟だということです。

いやいや、そうではなからうという人もあります。

火の雨が降ったからといって、そんなににわかには、石に穴をほって、人がすめるようにできるわけでもなし、それは、あまりにつごうよくできすぎた話だということです。つまり、この石のほら穴は、むかしの神神がすんでいたあとで、その神神がいなくなったあとを、だれかが家として使ったにちがいなからうということです。

ところが、その話も、あやしいという人があります。

むかしから、たいへんえらい人や、身分の高い人が死んだ場合には、大きなお墓〈はか〉をつくる習慣〈しゅうかん〉があります。これを古墳〈こふん〉といいます。この石のほら穴も、大むかしの墓にちがいなからうということです。

こういう話には、話し手、きき手の想像がまじりますので、なかなかほんとうのことがわかりません。

話はずっと新しくなりますが、あそこには、山賊という悪者が住んでいたという人もあります。

こういういろいろの話が、この高塚山をめぐる語りつがれているようなので、このことを正〈ただ〉すために、郷土の歴史研究家にたずねました。そうすると、この石窟は、古墳時代後期（六世紀ごろ）につくられた古墳の横穴式石室だということでした。